



Title	王明著作目録初稿（II）
Author(s)	田中, 仁
Citation	大阪外国語大学アジア学論叢. 1992, 2, p. 209-254
Version Type	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/99654">https://hdl.handle.net/11094/99654</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

## 王明著作目録初稿（Ⅱ）

田 中 仁

本稿では、「王明著作目録（初稿）（1935－1938）」（大阪外国語大学アジア研究会『アジア学論叢』、創刊号、1991年所収）に引き続き、王明（陳紹禹、1904－1974）の著作の整理作業を行う。今回は、1）1925年から1935年に発表された著作と、2）『王明詩歌選集』（進歩出版社、モスクワ、1979年）に収録されている詩歌類をまとめることとする。

### I 王明著作目録初稿（1925-1935）

1931年2月に発行された王明の『ふたつの路線』は、中国共産党（以下、中共）において「十余年にわたってなお引き続き人々から“正しい”“綱領的役割”を果たすものとして認められ続けてきた。」<sup>1)</sup>この点から、彼は1930年代の中共における毛沢東の最大のライバルであったとすることができるが、従来、彼は1931年1月の中共六届四中全会から1935年1月の遵義会議にいたる四年間、中共において指導的立場にあり、この時期、「政治路線・軍事路線・組織路線」上の極めて重大な「極左的誤り」を犯したとされ、この誤りは、遵義会議以降、毛沢東に代表される“正しい路線”により克服されていったと理解されてきた。中共党史における路線闘争史観は鄧小平によって否定されたが、<sup>2)</sup>中共十一屆六中全会で採択された「建国いらいの党の若干の歴史的問題についての決議」（1981年6月27日）で、1）王明の左翼冒険主義の指導によって第五次反“围剿”戦争に敗北したため中央ソ区を放棄せざるをえなくなり、革命根拠地と白色地区の革命勢力にきわめて大きな損害を与えた；2）遵義会議において紅軍と党中央における毛沢東同志の指導的地位を確立したことにより、紅軍と党中央はきわめて危険な状態から抜け出すとともに、中国革命の新局面を切りひらいたとしているよう

に、<sup>3)</sup>彼の政治的役割に対する評価に基本的変化は見られない。

しかしながら、その一方で、1935年の「八一宣言」以降の中共の抗日民族統一戦線政策への転換において王明が果たした一定の積極的役割を認める見解が提出されるとともに、<sup>4)</sup>この政策転換を準備したとされる1) 対日作戦協定締結のための「三条件」の提示(1933年1月17日); 2) 東北地区における反日統一戦線政策の実行を指示した「一・二六指示書簡」(1933年1月26日); 3) 中国人民武装自衛委員会準備会の「中国人民の対日作戦のための具体的綱領」(1934年4月20日)が、いずれも王明(あるいは中共駐コミンテルン代表团)に由来することが明らかにされてきた。<sup>5)</sup>彼に対する否定的評価と1935年の政策転換に関する先駆的役割とがいかなる関係を有するのかという問題は、今後検討すべき重要な研究課題である。<sup>6)</sup>彼が政治運動に足を踏み入れた1925年から1935年にいたる著作を整理することは、そうした研究課題に取り組むうえでの基礎作業となるであろう。

ここで、1904年に生まれてから1935年にいたる彼の略歴について、周国全・郭徳宏と曹仲彬・戴茂林の「王明年譜簡編」<sup>7)</sup>をもとにして整理しておきたい。

1904年5月23日、安徽省六安県(現在の金寨県)に生まれる。

1920年夏、六安県にある安徽省立第三甲種農業学校に入学。

1924年夏、国立武昌商科大学に入学。

9月、詹禹生らと豫皖青年学会を組織し事務部主任となる。

冬、武昌商科大学安徽同学会に加入し会刊『皖光』の編輯委員となる。

1925年、武漢における五卅支援運動において大衆的反帝運動に参加。武昌学生聯合会委員・湖北青年団体聯合会執行委員となる。

9月、中国共産主義青年団に加入、翌月中共に入党。また、この年、中国国民党に入党し湖北省党部宣伝幹事となる。

10月28日、モスクワ中山大学<sup>8)</sup>に留学(ロシア語通訳の短期養成コースに所属)。このころ副校長ミフとの面識を得る。

1926年9月初め、中山大学学生公社主席となる。

1927年1月、ミフの通訳としてソ連共産党宣伝家代表团に随行して帰国。

4-5月、ミフの通訳として中共五全大会に参加。大会後、中共中央宣伝部秘書[長]となり、『嚮導』編輯委員を兼務。

“七一五”政変前夜、ミフとともに中国を離れ、モスクワにもどる。

8月、校長となったミフに重用され、その影響下に、王明を中心とするセクトを形成。

秋、中山大学を卒業。大学に留まり、翻訳工作に従事するとともに大学支部局の宣伝幹事となる。

1928年初、“江浙同郷会”事件。<sup>9)</sup>

春、中山大学は中国労働者共産主義大学に改組され、同校の翻訳員兼ソ連共産党史担当の教員となる。

6－7月、秘書処翻訳科主任〔ミフの通訳〕として中共六全大会に参加。

1929年3月、帰国。

4月、中共上海滬西区委で宣伝工作に従事。

5月、『紅旗』記者となる。

7月、滬東区委宣伝幹事となる。

10月、中央宣伝部『紅旗』編集委員〔通訳員〕となる。

1930年1月12日、租界警察によって逮捕・拘留される（2月18日釈放）。

3月16日、逮捕中の行動に対して党内警告処分を受け、全国総工会党団秘書兼『労働』編輯委員に転任。

5月、上海イギリス租界電汽車罷工委員会委員・『罷工毎日快報』編輯委員を兼務。

6月、中共中央宣伝部秘書に転任。

7月9日、中央工作人員政治討論会において、秦邦憲らと李立三が主宰した中央政治局会議（6月11日）の決議に反対を表明し、中宣部秘書の職務を解かれる。10日、中央に意見書を提出し、留党察看六ヶ月の処分を受ける。

7－8月、江蘇省委宣伝部幹事に転出。

11月13日と17日、コミンテルンの李立三批判を踏まえて秦邦憲とともに中央に意見書を提出。

11月23日、孟慶樹と結婚。<sup>10)</sup>

11月、『ふたつの路線』を執筆し公表。

12月16日、中央、来華したミフの要求により王明らに対する処分を撤回し、

25日、彼を臨時江南〔江蘇〕省書記とする。

1931年1月7日、ミフのイニシアティブのもとに中共六届四中全会が開催され、中央委員・政治局委員となる。このあと、政治局常務委員となり中共の実質的権力を掌握。

2月10日、『ふたつの路線』を正式に出版。

6月、顧順章・向忠発らが相次いで逮捕されたため、上海郊外に潜伏。

10月18日（または9月25日）、上海を離れてソ連に向かう。

11月7日、モスクワに到着し、中共駐コミンテルン代表団団長となる。<sup>11)</sup>

1932年8－9月、コミンテルン第十二回プレナムにおいて執行委員会委員となる。

1933年11月、第十三回プレナムにおいて幹部会員となる。

1935年7－8月、コミンテルン第七回大会において執行委員会委員・幹部会員・書記局員候補となる。

上記の略年譜から、王明が中共の実質的権力を掌握するにあたって、パヴェル・ミフ（Павел А. Миф, 1901－1938）の役割が決定的であったことがわかる。ここで彼の略歴について簡単にまとめておく。<sup>12)</sup>

1917年5月、ロシア社会民主労働者党（ボ）に入党。

1920年末、Я. М. スヴェルドロフ記念共産主義大学に入学。

1921年、大学卒業後、スヴェルドロフカ研究員兼東方勤労者共産主義大学（クートヴェ）研究員となる（民族植民地問題の研究に従事）。

1925年末：クートヴェ副校長。のち中山大学（孫中山記念中国勤労者大学、クートカ）副校長となる。

1927年2－7月、ソ連共産党宣伝家代表団の団長として訪中。

8月、中山大學校長となる（1929年夏まで）。

1928年3月、コミンテルン東方部〔事務処〕の主任代理となる（1935年12月まで）。

1930年12月中旬、<sup>13)</sup> 来華。中共六届四中全会を開催し、王明らを中共の指導的地位につける。

1935年末、コミンテルンの指導者ディミトロフの中国問題補佐となる。

1936年5月、クートヴェ校長となる（12月まで）。

1937年1月、民族植民地問題学術調査研究所の所長となる。

1938年、肅正される。

中山大学においてミフの影響下において形成され、中共六届四中全会以降の中共の党組織を実質的に支配した王明グループは“二十八人〔半〕のボルシェビキ”あるいは“留ソ派（ソ連留学生派）”と呼ばれてきた。この“二十八人半”の由来は、中山大学の党総支委員会が管轄する下部組織を解散するか否かの表決において、29人が王明らを支持したため（中間的意見の一人を含む）、これに反対するグループは、彼らを“二十八人半のボルシェビキ”と称したことにありとされる。<sup>14)</sup> 1927年9月、中山大学卒業後、王明・張聞天・王稼祥・沈沢民らは大学に残って教学・翻訳工作に従事し、大学支部局の工作に参加した。中山大學校長でありコミンテルン東方部の実質的責任者でもあるミフの直接的な支援とコミンテルン・ソ連共産党の信任のもとで王明は支部局の指導権を掌握し、彼を中心とする教条的なセクトが形成されていった。<sup>15)</sup> 王明グループ（“二十八人〔半〕のボルシェビキ”）は1931年1月の共六届四中全会のあと中共の指導権を確立したが、この28人について、郭家倫『中共史論』と「立三路線失敗後之共党分裂状況」（『現代史料』、第2集、海天出版社、上海、1934年）が共通して掲げているのが、陳紹禹（陳韶玉）・張聞天・秦邦憲・沈沢民・陳昌浩・王稼祥（王稼蕎）・楊尚昆・何子述・汪盛荻（汪盛蒂）・夏曦・李元杰・陳徵明・王雲程・孫際明（孫濟民）・李竹声・沈觀瀾（沈志遠）・劉羣先（女）・張琴秋（女）・朱子純（女）・杜作祥（女）・朱阿根・徐一新の22人である。あとの6人について、郭家倫は陳原道・殷鑑・王盛榮・盛忠亮・孟慶樹（女）・袁家庸をあげ、「立三路線失敗後之共党分裂状況」は傅繼英（女）・徐孝臣・唐国符・癩頭・周賢光・胡文玉をあげている。<sup>16)</sup> 王明は1931年10月に中国を離れているにもかかわらず、1935年1月の遵義会議にいたるまで“王明の左翼冒險主義”の支配が継続したとされる点については、1) 彼がモスクワにおいて中共駐コミンテルン代表団団長となり、コミンテルン東方部の工作にも参加したこと；2) 当時の臨時中央とソ区中央局がコミンテルンの指示を仰ぎ、一般的には彼の支配下にある代表団がコミンテルンの名で指示を発したことにより説明される。<sup>17)</sup>

最後に、彼のペンネーム・仮名について触れておきたい。この点について曹仲彬・戴茂林『王明伝』は、次のように叙述している。<sup>18)</sup>

彼は本名を陳紹禹といい、<sup>19)</sup> 字は露清、幼名は禹子である。少年時代、彼は陳露清を用いていたが、故郷を離れて以降これを使用することはなくなった。中山大学留学後、彼はロシア語で“克勞白夫”を名乗り、帰国後は、紹禹・紹玉・慕石・石・兆雨・玉・慕などを用いた。“王明”は、1931年、モスクワ到着後に使用しはじめたものであり、この名前はコミンテルンにおける活動によって広く人々に知られるようになり、しだいに本名の陳紹禹にとってかわるようになった。また、“馬馬維奇”は1960年代に彼がソ連で文章を発表する際に用いた仮名である。

なお、付言すると、このほかに、泰山・風康・石紹禹・石紹予・紹玉・詔玉・紹虞・詔書・紹予およびロシア語の仮名“波波維奇”がある。<sup>20)</sup>

#### 【注】

- 1) 中共中央六届七中全会「若干の歴史問題についての決議」（1945年4月20日）、日本国際問題研究所中国部会編『中国共産党史資料集』（以下、『資料集』）、第12巻、勁草書房、1975年、241頁。
- 2) 『鄧小平文選（1975－1982年）』、人民出版社、1983年、271－272頁。
- 3) 中共中央文献研究室編『十一屆三中全会以来重要文獻選讀』、上冊、人民出版社、1987年、296頁。
- 4) 李良志（拙訳）「抗日民族統一戦線樹立における王明の役割について」（『大阪外国語大学論集』、第2号、1989年）の「解説」参照。
- 5) 1) については、中共中央党史研究室編『中共党史大事年表』、人民出版社、1987年、92頁；2) については中共中央党史研究室著『中国共産党歴史』、上巻、人民出版社、1991年、368頁を参照。また、曹仲彬・戴茂林『王明伝』（吉林文史出版社、1991年）所収の「王明著述目録索引」はこの三文件を収録している（469－470頁）。さらに、李良志「抗日民族統一戦線樹立における王明の役割について」はこのことを前提として論を展開している。
- 6) これは中共党史におけるソビエト革命の問題にほかならないが、この点については、

- 姫田光義「中華民国史におけるソビエト革命—その社会変動の歴史的意味」（中央大学経済研究所『歴史における文化と社会』、1987年）が参考になる。
- 7) 周国全・郭德宏「王明年譜簡編」、中国社会科学院近代史研究所《近代史研究》編輯部編『近代中国人物』、第3輯（『近代史研究』専刊）、1986年、471—485頁；曹仲彬・戴茂林『王明伝』、427—442頁。
  - 8) モスクワ中山大学については、曹仲彬・戴茂林『莫斯科中山大学與王明』（黒龍江人民出版社、1988年）参照。
  - 9) “江浙同郷会”事件については、同前書の111—120頁を参照。
  - 10) 周国全・郭德宏・李明三『王明評伝』、安徽人民出版社、1989年、119頁。
  - 11) 王明のもスクワ到着後、中共中央は、康生・林仲丹・楊松（呉平）・張浩（林育英）・周和森（高自立）・孔原・梁朴・欧陽生・趙毅敏らを次々と派遣し、王明を団長とする中共駐コミンテルン代表団を構成した（曹仲彬・戴茂林『王明伝』、240頁）。
  - 12) 于俊道編著『中国革命中的共産国際人物』、四川人民出版社、1986年、80—103頁；陳玉堂編『中共党史人物別名録（字号、筆名、化名）』、紅旗出版社、1985年、184—185頁；ソ連科学アカデミー極東研究所編著（毛里和子・本庄比佐子訳）『中国革命とソ連の顧問たち』、日本国際問題研究所、1977年、135—155頁。
  - 13) 曹仲彬・戴茂林『王明伝』、204頁。
  - 14) 鄭福林主編『中共党史知識手冊』、北京出版社、1987年、316頁。
  - 15) 曹仲彬・戴茂林『莫斯科中山大学與王明』101—105頁。
  - 16) 郭家倫『中共史論』、第2冊、波文書局、183頁；『現代資料』（中国現代史叢書之四）第2集、波文書局、1980年、275—6頁（復刻本）。
  - 17) 周国全・郭德宏「王明年譜簡編」、479頁。
  - 18) 曹仲彬・戴茂林『王明伝』、13—14頁。
  - 19) 周国全・郭德宏・李明三『王明評伝』は、もとの名前は陳紹煥で、のちに陳紹禹と改めたとしている（1頁）。
  - 20) 陳玉堂編著『中共党史人物別名録（字号、筆名、化名）』8頁；周国全・郭德宏・李明三『王明評伝』、1頁；于俊道編著『中国革命の共産国際人物』、25頁。



### 凡例

- 1) 「250429」は、1925年4月29日のことである。日付は、執筆日が確定できるものはそれを採用し、そうでないものは、発行・出版日とした。
- 2) 同じテキストで版本によりタイトルが異なる場合は、そのタイトルを a・b・c で示した。
- 3) 単行本（パンフレットを含む）として刊行されたもの、あるいは単行本となったことのある資料については、タイトルの部分に下線を付した。
- 4) 署名については、版本がひとつの場合はタイトルのあとに、複数の場合は版本のあとに示した。なお欧文資料における署名は、管見のかぎりでは、すべて“В а н М и н” “Wan Min” “Wang Ming” であり、表記を省略した。
- 5) (英)・(徳)・(俄)とあるのは、それぞれ英語・ドイツ語・ロシア語の資料であることを示す。
- 6) 《選集》②③④・《選輯》とあるのは、それぞれ『王明選集』（本庄比佐子編、汲古書院）の第2巻（1971年）・第3巻（1973年）・第4巻（1974年）と『王明言論選輯』（余子道・黄美真編、人民出版社、1982年）に収録されていることを示す。また、《資料集》③⑤⑥⑦とあるのは、『中国共産党史資料集』（日本国際問題研究所中国部会編、勁草書房）の第3巻（1971年）・第5巻（1972年）・第6巻（1973年）・第7巻（1973年）に、また、《集成》③⑤とあるのは『資料集成中国共産党史』（波多野乾一編、時事通信社、1961年）の第3巻・第5巻に日本語訳が収録されていることを示す。
- 7) <sup>1-12)</sup> とあるのは「注」を示し、史料の出所を付記した。
- 8) <sup>\*1)</sup> とあるのは「補注」を示し、補足説明を加えた。

250429<sup>1-12</sup>革新运动中所得之经验（陈绍禹）

《商大周刊》第3卷第5期（250510）（《选集》②）

250429<sup>1-12</sup>三种不同的面目（绍禹）

《商大周刊》第3卷第5期（250510）（《选集》②）

250429<sup>1-12</sup>革新运动后之最简单希望（陈绍禹）

《商大周刊》第3卷第5期（250510）（《选集》②）

250501安徽的学生（陈绍禹）

《皖光》第1卷第1期（250501）<sup>1-14</sup>

250501反对和免除贵族专利的现代学校教育（陈绍禹）

《皖光》第1卷第1期（250501）<sup>1-15</sup>

250501恋爱真谛（陈绍禹）

《皖光》第1卷第1期（250501）<sup>1-16</sup>

250527<sup>1-13</sup>

社会、社会学、社会科学、社会问题、社会主义底浅释（陈绍禹）

《社会科学研究》第1集（2512）（《选集》②）

270526<sup>1-26</sup>中国革命前途与革命指导权问题（绍禹）

《响导》第198期（270615）（《选集》②、《资料集》③）

270601<sup>1-25</sup>英俄断绝国交问题（绍禹）

《响导》第197期（270608）（《选集》②）

280113旅莫支部的面面观<sup>6</sup>

280516<sup>3-640</sup>《武装暴动》的序言

《布尔塞维克》第2卷第6期（290401）（韶玉）（《选辑》）／《时代丛书 艺术论》（290601）（韶玉）（《选集》②、《资料集》③）

281117<sup>2-92</sup>·<sup>1</sup>广东暴动纪实（韶玉）

《广东公社》（301225）、无产阶级书店（《选集》②）

290901论撒翁同志对中东路问题的意见（韶玉）

《布尔塞维克》第2卷第10期（290901）（《选辑》）

291012英美联合和平宣言与第二次世界大战（韶玉）

《红旗》第48期（291012）（《选集》②）

- 291015社论：最近政局与拥护苏联（慕石）  
《红旗》第49期（291017）（《选集》②、《选辑》）
- 291107准备着应战（慕石）  
《红旗》第51期（291107）（《选集》②）
- 291107太平洋会议的内幕—赛狗会（慕石）  
《红旗》第51期（291107）（《选集》②）
- 291110六万劳苦群众的武装斗争（慕石）  
《红旗》第52期（291110）（《选集》②）
- 291113进攻苏联与瓜分中国（慕石）  
《红旗》第53期（291113）（《选集》②）
- 291113与一个工人同志的谈话（慕石）  
《红旗》第53期（291113）（《选集》②）  
《红旗》第54期（291116）（《选集》②）
- 291116太平洋会议的总结（慕石）  
《红旗》第54期（291116）（《选集》②）
- 291120第二次太平洋劳动会议的总结（慕石）  
《红旗》第55期（291120）（《选集》②）
- 291120反对派还是反动派?!（慕石）  
《红旗》第55期（291120）（《选集》②）
- 291123党的主要实际政治危险，究竟是什么？（慕石）  
《红旗》第56期（291123）（《选辑》）
- 291123两个策略与两个政纲（慕石）<sup>3-6411</sup>  
《红旗》第56期（291123）
- 291127论陈独秀（慕石）  
《红旗》第57期（291127）（《选集》②、《选辑》）
- 291130以革命联合回答反革命联合（慕石）  
《红旗》第58期（291130）（《选集》②）
- 291130第三次暴动与“第四次暴动”（慕石）  
《红旗》第58期（291130）（《选集》②、《选辑》）

291130调和倾向与调和派（慕石）

《红旗》第58期（291130）（《选集》②）

291204检阅我们的工作（石）<sup>3-642</sup>

《红旗》第59期（291204）

291204“西北问题解决”后（慕石）

《红旗》第59期（291204）（《选集》②）

291204哈尔滨群众反日拥俄大示威的意义（慕石）

《红旗》第59期（291204）（《选集》②）

291205广东暴动二周年纪念（慕石）

《布尔塞维克》第2卷第11期（291205）（《选辑》）

291205社会主义建设的伟大工作—苏联的五年经济计划的研究（慕石）

3-642

《布尔塞维克》第2卷第11期（291205）

291207极可注意的两个农民意识问题（慕石）

《红旗》第60期（291207）（《选集》②、《选辑》）

《红旗》第67期（300104）（《选辑》）

291211“中俄和平交涉”与进攻苏联战争（慕石）

《红旗》第61期（291211）（《选集》②）

201211广州暴动与中国革命性质问题（慕石）

《红旗》第61期（291211）（《选集》②）

291218“中俄和平交涉”的现状与前途（慕石）

《红旗》第62期（291218）（《选集》②）

291218军阀战争与取消派（慕石）

《红旗》第62期（291218）（《选集》②）

291220“没有一个好东西！”（慕石）

《红旗》第63期（291220）（《选集》②）

291220唐山五矿工友的斗争（慕石）

《红旗》第63期（291220）（《选集》②）

291225为那一种“民主主义”而战？（慕石）

- 《红旗》第64期（291225）（《选集》②）
- 291225欢迎朝鲜的“五卅”（慕石）
- 《红旗》第64期（291225）（《选集》②）
- 291228阎张等通电后的政局（慕石）
- 《红旗》第65期（291228）（《选集》②）
- 300101一九二九年的中国（慕石）<sup>3-642</sup>
- 《红旗》第66期（300101）
- 300104“狗狸尾巴都露出来了”（慕石）<sup>3-642</sup>
- 《红旗》第67期（300104）
- 310108反对两个严重错误的倾向（慕石）
- 《红旗》第68期（300108）（《选集》②、《选辑》）
- 310111军阀战争的“成绩”（慕石）
- 《红旗》第69期（300111）（《选集》②）
- 300111为甚么反对派要自称“列宁主义布尔塞维克”？（慕石）
- 《红旗》第69期（300111）（《选集》②）
- 300221给中共中央的信（汇报被捕和在狱中的情况）（陈绍禹）<sup>2-465</sup>
- 3002 给米夫的信<sup>1-71</sup>
- 300326再论反富农问题—富农问题的严重（韶玉）
- 《红旗》第87期（300326）（《选集》②、《选辑》）
- 300328给组织局的信—报告谈话经过（王凤飞、韶玉）<sup>1-76</sup>
- 300410南京四三惨案的意义与教训（兆雨）<sup>3-643</sup>
- 《劳动》第28期（3000410）
- 300410加紧准备“红色的五一”！（玉）<sup>3-643</sup>
- 《劳动》第28期（300410）
- 300410“四一二”与蒋介石（石）<sup>3-643</sup>
- 《劳动》第28期（300410）
- 300410汉口蛋厂的同盟罢工（慕）<sup>3-643</sup>
- 《劳动》第28期（300410）
- 300501要饭吃！要工作！要土地！（石）<sup>3-643</sup>

- 《劳动》第30期（300501）
- 300501援助英日同盟罢工的兄弟们（石）<sup>3-643</sup>
- 《劳动》第30期（300501）
- 300514上海水电工人的同盟罢工（兆雨）<sup>3-643</sup>
- 《劳动》第31期（300514）
- 300514“赤俄”与“白俄”（石）<sup>3-643</sup>
- 《劳动》第31期（300514）
- 300515目前军阀战争与党的任务（韶玉）
- 《布尔塞维克》第3卷第4、5期合刊（300515）（《选集》②、《选辑》）
- 300517为甚么不组织雇农工会？—农民意识，尤其是富农意识作怪（韶玉）
- 《红旗》第102期（300517）（《选集》②、《选辑》）
- 《红旗》第103期（300521）（《选集》②、《选辑》）
- 《红旗》第104期（300524）（《选集》②、《选辑》）
- 300523上海水电工人同盟罢工胜利的意义与教训（兆雨）<sup>3-644</sup>
- 《劳动》第32期（300523）
- 300523一个笑里藏刀的危險口号！（兆雨）<sup>3-644</sup>
- 《劳动》第32期（300523）
- 300523怎样准备五卅工作？（玉）
- 《劳动》第32期（300523）（《选辑》）
- 300523国际劳工局与国民党（石）<sup>3-644</sup>
- 《劳动》第32期（300523）
- 300527上海水电工人同盟罢工的胜利（韶玉）
- 《红旗》第105期（300527）（《选集》②）
- 300607与印度安南兄弟们共同行动起来！（石）<sup>3-644</sup>
- 《劳动》第43期（300607）
- 300621什么是“流氓”与“匪”？（韶玉）
- 《红旗》第112期（300621）（《选集》②）
- 300702“没收地主阶级的一切土地”，还是“没收一切土地”（韶玉）
- 《红旗》第115期（300702）（《选集》②）

300710致中共中央的信（就中国革命和形势问题谈自己的不同看法）（陈绍禹）<sup>2-467</sup>）

3007 致中共中央的信<sup>2-170</sup>）

300924致六届三中全会的信（表示拥护三中全会）（陈绍禹）<sup>2-467</sup>）

301113给中央政治局的信（批评六届三中全会）（陈绍禹、秦邦宪）  
<sup>2-467</sup>）

301117给中央政治局的信（标榜自己反对“立三路线”，要求中央撤销处分）（陈绍禹、秦邦宪）<sup>2-467</sup>）

3011<sup>2-183</sup>）

“两条路线”／<sup>b</sup>两条战线：两条路线的斗争—拥护国际路线，反对立三路线／<sup>c</sup>为中共更加布尔塞维克化而斗争<sup>\*2</sup>）

《两条路线》、绍禹著、（310210）<sup>2-199</sup>）／《两条战线》、绍禹著、中共中央出版部、无产阶级书局（310715）（《选集》③、《资料集》⑤）／《为中共更加布尔塞维克化的斗争》（翻印中国通行版）、韶玉著（34）<sup>4-931Mf</sup>）

301214立三路线与战后资本主义第三时期

《实话》第3期（301214）（韶玉）<sup>3-644</sup>）／《反对李立三主义》、国家联合出版部远东支部、伯力（31）（韶玉）（《选集》③）

3111 中国反帝运动的新高潮<sup>3-644</sup>）

《共产国际》（俄）第32期（3111）／《中国民族革命战争问题》（摘录）（3502）（《选集》④、《选辑》）

311215<sup>a</sup>关于中国的革命工会运动／<sup>b</sup>中国革命危机和革命工会活动的任务（赤色职工国际中央委员会第八次会议）<sup>3-644</sup>）

《国际工人运动》（俄）第36期／《赤色工会国际》（俄）第1、2期／《国际新闻通讯》（英）第11卷第66期<sup>5-5/651</sup>）

311229共产国际指示—关于反帝斗争问题<sup>\*3</sup>）

320110中国反帝运动的新跃进<sup>5-5/661</sup>）

《共产国际》（德）第13期第1卷

320219中国革命形势与中共当前的任务（列宁学校中国民族组大会）<sup>6</sup>）

320331<sup>a</sup>中国革命危机的加深和中国共产党的任务／<sup>b</sup>中国目前的政治形势  
与中共当前的主要任务<sup>3-645</sup>

《布尔什维克》（俄）<sup>a</sup>第5、6期合刊（320331）／《中国目前的政治形势与中共当前的主要任务》、王明著、苏联外国工人出版社（3206）<sup>4-10367Y</sup>（《选集》③、《选辑》）／摘录：《中国民族革命战争问题》<sup>b</sup>（3502）（《选集》④）

320418给共产国际执委会政治委员会的信—关于丘古洛夫发言问题<sup>6</sup>

320519给米夫的信<sup>6</sup>

320526第四次国民党围剿全面失败<sup>5-6/611</sup>

《国际新闻通讯》第12卷第23期（320526）<sup>4-627H1</sup>

320617中国共产党的一般组织情况<sup>6</sup>

3209<sup>1-204</sup>

中国革命运动的苏维埃阶段（共产国际执委会第十二次全会）

《中国问题》（俄）第11期（33）<sup>2-470</sup>／摘录：《中国民族革命战争问题》（3502）（《选集》④）

32 反对中共党内的李立三主义的斗争<sup>3-645</sup>

《革命的东方》（俄）第3、4期

32 苏维埃中国是开展土地革命和民族革命战争的根据地<sup>3-645</sup>

《共产国际》（俄）第23期

32 国民党组织中国反革命势力的新策略<sup>3-645</sup>

《共产国际》（俄）第25、26期

32 广州公社五周年和中国现状<sup>3-645</sup>

《共产国际》（俄）第35、36期／《共产国际》第4卷第1期（330131）<sup>6</sup>

330117中华苏维埃临时中央政府工农红军革命军事委员会为反对日本帝国主义侵入华北愿在三条件下与全国各军队共同抗日宣言（毛泽东、朱德）<sup>2-469</sup>

330126论满洲的状况和我们党的任务（给满洲各级党部及全体党员的信）（中共驻共产国际代表团）<sup>2-469</sup>

3301<sup>1-239</sup>



°东三省情形与日本对中国的新进攻／°东北情形与反[抗]日统一战线策略

《共产国际》第4卷第2期(3302)／《共产国际》(俄)第4、5期／《中国民族革命战争问题》°(摘录)(3502)(《选集》④)／《陈绍禹(王明)救国言论选集》°(3807)\*4)

3303 给亨利·巴比赛、罗曼·罗兰和巴黎反战青年代表大会全体代表的信<sup>3-645)</sup>

《共产国际》(俄)第8期

330602关于中东铁路的争论<sup>5-6/648)</sup>

《国际新闻通讯》(英)第13卷第24期(330602)<sup>4-627Mf)</sup>

3306 五卅事变八周年及中国现状<sup>3-645)</sup>

《共产国际》第4卷第6期(3306)(王明)／《中国民族革命战争问题》(摘录)(3502)(《选集》④)

330701<sup>6)</sup>中国红军底大胜利(中国红军的重大胜利)

《共产国际》(俄)第18期<sup>3-646)</sup>／《共产国际》(英)第10卷第13期(330701)<sup>4-708Mf)</sup>／《共产国际》第4卷第8期(330831)(王明)<sup>4-386Mf)</sup>(《选集》③)

3308<sup>6)</sup>中国苏维埃政权底经济政策

《共产国际》第4卷第9期(330930)(王明)<sup>4-386Mf)</sup>(《选集》③)／《共产国际》(俄)第24期<sup>2-646)</sup>／《中国问题》(俄)第12期<sup>3-646)</sup>／《布尔塞维克》第1期、瑞金(3407)／《中国苏维埃政权底经济政策》、王明著、苏联外国工人出版社<sup>4-9276Y)</sup>／《六大以来》(4112)(王明)

330908给波特尼茨基的信<sup>6)</sup>

330927<sup>2-470)</sup>《苏维埃中国》引言(王明)

苏联外国工人出版社、莫斯科(33)(《选集》③)

331010给《新共和》杂志编辑部的信<sup>6)</sup>

331027<sup>1-230)</sup>致中共中央政治局的信(王明、康生)<sup>2-470)+5)</sup>

331130<sup>6)</sup>东方劳动者底重大损失(王明、康生)

《共产国际》第4卷第11期（331130）<sup>4-386Mf</sup>（《选集》③）

331130-1201<sup>1-246</sup>）

<sup>a</sup>革命、战争和武装干涉与中国共产党底任务／<sup>b</sup>中国现状与中共任务／<sup>c</sup>中国：战争的现状，干涉与革命（共产国际执委第十三次全会）

《共产国际》（俄）第36期<sup>3-646</sup>／《共产国际》<sup>a</sup>第5卷第1期（340131）（王明）<sup>4-386Y</sup>（《选集》③、《选辑》、《资料集》⑥）／《中国问题》（俄）第3期<sup>3-646</sup>／《国际新闻通讯》（英）<sup>c</sup>第14卷第7期（340205）<sup>4-627Mf</sup>／《中国现状与中共任务》王明康生共著、苏联外国工人出版社（34）<sup>4-9580Y</sup>／《六大以来》<sup>b</sup>（4112）（王明）

331228王明在莫斯科的谈话材料<sup>5</sup>）

33 中苏工农联盟万岁<sup>6</sup>）

34 中国革命不可战胜（联共（布）第十七次代表大会）

《周围世界》（俄）第3期<sup>3-646</sup>）

340221中国共产党是中国反帝与土地革命中的唯一的领袖

《斗争》第64期、上海（340221）<sup>3-646</sup>／《斗争》第66期、瑞金（340630）（王明）（《选集》③）／《起来》（341231）（《集成》⑤）

3402 第一次苏维埃大会的改造运动和苏维埃的民主

《集成》③<sup>2-471</sup>）

34 东方的第二个苏维埃共和国

《青年共产国际》（俄）第3期<sup>3-646</sup>）

340420给中共中央政治局的信（王明、康生）<sup>1-226</sup>）

340425给中共中央政治局的信（王明、康生）<sup>6</sup>）

340507关于刊物问题的信<sup>6</sup>）

340527关于共产国际第六—七次代表大会期间中共情况的报告<sup>6</sup>）

340706致书记处<sup>6</sup>）

340723给切尔诺莫恩科同志的信<sup>6</sup>）

3407<sup>2-265</sup>）

十三年来的中国共产党—中共布尔塞维主义化的道路和列宁主义在

## 中国的胜利

《共产国际》第5卷第11期(341130)(王明)<sup>4-386Mf</sup>(《选集》③)  
／《十三年来的中国共产党》王明著、苏联外国工人出版社(35)<sup>4-9286Y</sup>

340803给中央的信(王明、康生)<sup>1-255</sup>

340909给国际济难会执委会斯塔索娃同志的信<sup>6)</sup>

340916给中共中央政治局的信(王明、康生)<sup>1-231</sup>

341114给中共中央的信(中共驻共产国际代表团)<sup>1-232</sup>

341123<sup>a</sup>新条件与新策略<sup>\*6)</sup>／<sup>b</sup>苏维埃中国的新情况与新策略／<sup>c</sup>新形势与新策略

《国际新闻通讯》(英)<sup>b</sup>第14卷第62期(341208)<sup>4-627Mf</sup>(《资料集》⑦)／《新条件与新策略》、王明著、苏联(35)<sup>4-10371Y</sup>(《选集》③)／节要：《社联盟报》<sup>c</sup>(王明)(351230)<sup>4-25106</sup>

341130<sup>a</sup>六次战争与红军策略／<sup>b</sup>中国红军反蒋介石第六次围剿的斗争

《布尔什维克》(俄)<sup>b</sup>第22期(341130)(王明)<sup>5-b/4)</sup>／《共产国际》(俄)第32、33期／《共产国际》(英)第12卷第1期(350105)<sup>4-708Mf</sup>(《资料集》⑦)／《共产国际》(德)第16卷第1期(350105)／《新条件与新策略》<sup>\*6)</sup><sup>a</sup>王明著、苏联(35)<sup>4-10371Y</sup>(《选集》③、《选辑》)

341204代表中共代表团给共产国际政治委员会全体同志的信<sup>6)</sup>

34 中国苏维埃是特殊形式的工农民主专政(王明)<sup>3-647</sup>

《共产国际》(俄)第31期／《马列主义函授教程》第11期

35 新条件与新策略<sup>\*6)</sup>

《新条件与新策略》、王明著、苏联(35)<sup>4-10371Y</sup>(《选集》③)

3501 时评：福建事变一周年<sup>6)</sup>

《中国报》第8、9期合刊

3502 中国民族革命战争问题<sup>\*7)</sup>

王明著、苏联外国工人出版社、莫斯科(35)<sup>4-10380Y</sup>(《选集》④)

350603给中共吉东特委负责同志的秘密信(王明、康生)<sup>1-241</sup>

（《満洲共产匪之研究》（日）、《資料集》⑦）

350719給庫西宁同志的信<sup>6)</sup>

35 《第二屆蘇維埃代表大會》序言（王明）<sup>3-647)</sup>

《第二屆蘇維埃代表大會》、蘇聯（35）

### 【注】

- 1) 周国全・郭德宏・李明三『王明評伝』。あとの数字は頁数。
- 2) 曹仲彬・戴茂林『王明伝』。あとの数字は頁数。
- 3) 「王明文章・講和目録」、余子道・黄美真編『王明言論選輯』（人民出版社、1982年）所収。あとの数字は頁数。
- 4) 東洋文庫所蔵。あとの数字は資料番号（Mfはマイクロ資料、Yは影印資料）。
- 5) 『中国共産党史資料集』。あとの数字は、巻数／頁数（bは補巻）。
- 6) 楊奎松氏の教示による。

### 【補注】

- 1) 周国全・郭德宏「王明年譜簡編」は、11月1日執筆としている（474頁）。
- 2) 『ふたつの路線』の初版の発行と第二・第三版については以下のとおり。1930年11月末、『兩条路線底闘争』を発表（周国全・郭德宏「王明年譜簡編」、477頁）。1931年2月10日、「幾点必要的声明」を付加し、『兩条路線』を正式に出版（曹仲彬・戴茂林『王明伝』、199頁）。1932年3月、題名を『為中共更加布爾塞維克化而闘争』と改めてモスクワで再版を発行。また、11月7日、モスクワで同第二刷を印刷（周国全・郭德宏「王明年譜簡編」、480—481頁）。1940年、同第三版を発行（周国全・郭德宏「王明年譜簡編」、495頁；曹仲彬・戴茂林『王明伝』335、452頁）。ただ、1931年2月に発行された版本と7月15日に出版された版本との関係についてはよく分からない。
- 3) 周国全・郭德宏・李明三『王明評伝』は、王明が参与し制定された最初のコミンテルンの文件としてこれを掲げている（203頁）。
- 4) 陳紹禹（王明）著『陳紹禹（王明）救国言論選集』（中国出版社、1938年7月、漢口）は、17篇（本篇14と付録3）の論文を収録し、抗戦初期の彼の見解を理解するうえで

の基本文献である。『選集』に収められた「東北情勢與抗日統一戦線策略」（付録一）は、『中国民族革命戦争問題』（1935年2月）所収の摘録と比較しても系統的な書きかえが見られることから、『共産国際』第4巻第2期（1933年2月）所収の版本（未見）とは、さらに大きな相違があると思われる。なお、本庄比佐子編『王明選集』第1巻（1970年）は、『陳紹禹（王明）救国言論選集』の影印である。

- 5) 李良志「抗日民族統一戦線樹立における王明の役割について」は、次のように論じている。「1933年10月27日、王明らは、中国全土における抗日救亡運動を更に広範に展開するため、中共中央に対し「六項目の抗日綱領」に関する指示をだした。…党中央は王明の指示書簡に基づいて広範な準備工作进行了あと、1934年4月20日、“中国民族武装自衛委員会”の名で「中国人民対日作战具体綱領」を公表した」（238頁）。同様の記述は、曹仲彬・戴茂林『王明伝』の260-261頁；周国全・郭德宏・李明三『王明評伝』の230-231頁にも見られる。
- 6) 1935年にソ連で印刷・発行された『新条件與新策略』は；1)「小引」（1934年11月24日執筆）；2)「六次戦争與紅軍策略」；3)「新条件與新策略」からなっている。この「小引」によれば、2)はソ連外国工人出版社中国部全体工作人員会議での報告であり、3)は『インプレコール』の記者の要請に応じて執筆したものである。
- 7) 『中国民族革命戦争問題』は、「序」；1)「東北事变底意義與中国共产党底策略」；2)「中国反帝運動的新高潮」；3)「東北情形與反日統一戦線策略」；4)「上海抗日防衛戦及其教訓」；5)「中国民族革命戦争能否勝利問題」；6)「中国無産階級及其政党（共产党）是反帝革命底唯一領袖」からなっている。「序」によると、このパンフレットは1933年末に、ある中国工人訓練班の教員の提案によって同班の参考資料として作成されたものであり、その内容は主として以前に発表した論文と講演録の抜粋・転載である。すなわち、2)は「中国反帝運動的新高潮」（ロシア語版『共産国際』、1931年第32期）の摘録（42頁）；3)は「東三省情形和日本対中国的新進攻」（中国語版『共産国際』第4巻第2期、1933年2月）の摘録（92頁）；4)は「第12回プレナムにおける発言」と『中国目前政治形勢與中共当前主要任務』（ソ連外国工人出版処、1932年）からの摘録（101、108、112、121、138頁）；5)は『中国目前政治形勢與中共当前主要任務』からの摘録（160頁）；6)は「五州事变八週年及中国現状」（中国語版『共産国際』、1933年第6期）からの摘録（177頁）である。

\*

\*

以下、本稿で引用した雑誌類について簡単にまとめておく。

『商大周刊』は国立武昌商科大学出版課の刊行物であり；『社会科学研究』は武昌商科大学の学生サークル社会科学研究会の機関誌である。<sup>1)</sup> また、『皖光』は国立武昌商大皖籍学会会刊である。<sup>2)</sup>

『嚮導』は、1922年9月13日に上海で創刊された公開發行の中共機関誌（週刊）で1927年7月18日に第201期をもって停刊。<sup>3)</sup> 『布爾塞維克』は、1) 1927年10月24日に上海で創刊された中共中央機関誌（週刊→半月刊→月刊）で1932年7月に第5巻第52期をもって停刊<sup>4)</sup>；2) 中国共産党ソ区中央局機関誌として1934年7月に瑞金で創刊。<sup>5)</sup> 『紅旗』は、1928年11月20日に上海で創刊された中共中央の理論誌（中共中央宣伝部編、週刊→三日刊）で第126期まで発行したあと、1930年8月15日に中共江蘇省委機関紙『上海報』と合併して『紅旗日報』となる。<sup>6)</sup> 『労働』（三日刊）は、1929年8月に創刊された全国総工会機関紙。<sup>7)</sup> 『実話』は1930年10月30日に上海で創刊された中共中央機関誌で『紅旗日報』の紙幅の不足を補うことを目的とした。<sup>8)</sup> 『闘争』は、1) 1932年1月21日に上海で創刊された中共中央機関誌<sup>9)</sup>；2) 1933年2月に瑞金で創刊された中共ソ区中央局機関誌で1934年9月に第93期をもって停刊。<sup>10)</sup>

『中国問題』（Проблемы Китая）は1929年に創刊されたモスクワ中山大学の中国問題研究所（中国學術調査研究所）所報（季刊で1935年停刊）。1930年秋に中山大学が廃止されたあと、同研究所は民族植民地問題研究会に属し、のちモスクワ共産主義学院の一機構となる。<sup>11)</sup> 『革命的東方』（Революционный Восток）は、1927年に創刊された東方勤労者大学學術調査協会機関誌（1937年停刊）。<sup>12)</sup>

『共産国際』は、コミンテルン執行委員会理論機関誌。ロシア語版（Коммунистический Интернационал、1919—1943）はモスクワで、ドイツ語版（Die Kommunistische Internationale、1919—1940）はモスクワ・レーニングラード・ベルリン・ハンブルグなどで、英語版（The Communist International、1919—1939）はレーニングラード・ロンドン・ニューヨークで、中国語版（共産国際、1929—36）はモスクワで、それぞれ発行された。<sup>13)</sup> 『国際新聞通

訊』(International Press Correspondence)は、1921年に創刊されたコミンテルン執行委員会の情報・宣伝機関紙で、ベルリン・ウィーン・ロンドンで発行され、1938年停刊。<sup>10)</sup>『布爾什維克』(Большевик)はソ連共産党の政治・経済理論誌で、『中国共産党史資料集』の「別巻」(1975年)に、1927年から1945年までに同誌に掲載された中国関係論文リストがある。また、『国際工人運動』(Интернациональное Рабочее Движение)と『赤色工会国際』(Красный Профинтерн)は赤色労働組合インターナショナル(プロフィンテルン)の、『青年共産国際』(Коммунистический Интернационал Молодежи)は共産主義青年インターナショナル(キム)の機関誌(紙)と思われる。

『社聯盟報』は、中国社会科学者聯盟常務委員会編。東洋文庫に1935年12月30日発行分を所蔵。<sup>15)</sup>『起来』は、波多野乾一編『資料集成中国共産党史』の第5巻644頁に記載があるが、詳細は不明。『周圍世界』(Вокруг Света)・『中国報』も詳細は不明。

#### 【注】

- 1) 本庄比佐子「陳紹禹(王明)略伝」、同編『王明選集』、第5巻、1975年、339、332頁。
- 2) 周国全・郭徳宏・李明三『王明評伝』、15頁。
- 3) 陳榮華・閻中恒・何友良編『中国革命史手冊』、華中師範大学出版社、1986年、727頁。
- 4) 同前書、732頁。
- 5) 日本国際問題研究所中国部会編『中国共産党史資料集』、第5巻、「使用文献資料一覧表」、35頁。
- 6) 陳榮華・閻中恒・何友良編『中国革命史手冊』、733頁。
- 7) 曹仲彬・戴茂林『王明伝』、143頁。
- 8) 陳榮華・閻中恒・何友良編『中国革命史手冊』、735頁。
- 9) 日本国際問題研究所中国部会編『中国共産党史資料集』、第5巻、「使用文献資料一覧表」、35頁。
- 10) 陳榮華・閻中恒・何友良編『中国革命史手冊』、738頁。

- 11) 曹仲彬・戴茂林『莫斯科中山大学與王明』、黒龍江人民出版社、1988年、35頁；ソ連科学アカデミー極東研究所編著『中国革命とソ連の顧問たち』、195頁。
- 12) ソ連科学アカデミー極東研究所編著『中国革命とソ連の顧問たち』、195頁。
- 13) 村田陽一編訳『コミンテルン資料集』、別巻、大月書店、1985年、248－249頁。
- 14) 同前書、248頁。
- 15) アジア経済研究所調査研究部『中国抗日救国時論誌記事目録』、上巻、アジア経済研究所、1981年、47頁。



## Ⅱ 王明詩歌目録

『王明詩歌選集』は、1979年にモスクワの進歩出版社から中国語とロシア語で出版され、1913年（9歳）から死去する前年の1973年にいたる王明の詩歌399首が収録されている。孟慶樹の「前言」（1977年10月12日執筆）によると、その内容は、1) 彼が政治活動に入る以前に書かれ、青年たちに反帝・反軍閥闘争をよびかけるもの；2) マルクス＝レーニン主義・ソ連・労働者を讃えるもの；3) 反毛沢東を内容とするもの；4) 妻孟慶樹のことを詠んだものに分類される。<sup>1)</sup> 最近、中国で出版された周国全・郭德宏・李明三『王明評伝』と曹仲彬・戴茂林『王明伝』は、いずれも、1) を重要な素材として彼の少年期・青年期を叙述するとともに、<sup>2)</sup> 3) に反駁を加えている。

曹仲彬らは、この『選集』に収録された作品のかなりの部分が毛沢東と党に対する彼の不満を吐露するために〔1953年、あるいは1956年の〕訪ソ以後に書かれたものである；このため、人々はこれを読んで、作品の中には〔制作時期として明記されているより〕後に作られたものがあり、少なからずの作品に後になって手を加え、またある作品はソ連で書かれたにもかかわらず国内で書かれたかのような印象をもつとし、従って、何ら分析を加えないままこれらの詩歌を用いて彼の政治的役割を論ずることはできないと述べている。<sup>3)</sup> 筆者は、1) 少年期から青年期にかけての彼をめぐる諸状況に対する具体的イメージを獲得し、2) 毛沢東との矛盾が明確化して以降の彼の心のうちとソ連における事実上の亡命生活の実情を知り、さらに3) 晩年における彼の主張を了解する上でこの『選集』は極めて貴重であると考える。<sup>4)</sup>

ここで上述したふたつの評伝がともに実際には1970年代の文革期に書かれたとして<sup>5)</sup> 考察を加えている反毛沢東を内容とする作品「驚人之計」（1936年初め）にふれておきたい。

原文（以下、Ⅰ）は：

喜能通電訊；閱報令人驚；  
唯有悲觀氣，竟無抗日心。  
紅軍爭北上；指導要東征。

### 急電説原委、南旋計不成。

であり、その「注」（以下、Ⅱ）として王明は：

毛沢東らは瓦窑堡からコミンテルンに打電し、粟になじめないとして紅軍が山西にむけて東征することを決定し、南方にもどることを目論んだ。ディミトロフと私はとても驚き、北上抗日政策を堅持しなければならず、東征して南下することは出兵に大義名分がなく政治的にも不利であるとの至急電を発した。毛沢東らはこの忠告に耳をかさず、突如として東征を実施したが、黄河辺で山西軍に阻止されて渡河できなかった。劉志丹同志が砲撃を受けて犠牲となり、ここではじめて南下計画は放棄された。

と述べている。<sup>6)</sup>

これに対して、曹仲彬らは、1) 東征の目的は「粟になじめない」から南下することにあったのではなく、革命根拠地を發展させるとともに全国の抗日救亡運動を推進して抗日民族統一戦線の樹立を促すことにあった；2) 1936年2月に紅軍は実際に黄河を渡り、山西省の西部・南部・東南および西北地区を転戦した；3) 黄河以西への帰還はけっして軍事上の失敗による余儀なくされた撤退ではなく、当時の国共交渉の進展と閻錫山との秘密交渉を踏まえてなされたものであるとする。また、「私はモスクワにおいて毛沢東に反対したことは決してなかった」という中共七届二中全会（1949年3月）における資格審査での王明の表明<sup>7)</sup>を論拠として、1936年当時、彼は毛沢東に反対していなかったと論じ、さらに、反毛沢東の姿勢が明確なこの詩（Ⅰ）と「注」（Ⅱ）は、1975年に出版された『中共五十年』（『王明回想録』）<sup>8)</sup>における東征に関する叙述と内容が一致しているとして、この詩は1970年代に書かれたものであると主張する。<sup>9)</sup>

筆者は、七届二中全会における王明の表明は、「驚人之計」（Ⅰ）が「1936年初め」の作品ではないということの確実な論拠とはなりえないと考える。なぜなら、この表明は、1931年から1937年にいたるモスクワ滞在中に王明が毛沢東に反対する政治的発言をしなかったという意味であり、それは、私的な領域における詩作（この作品は、当時、公表されてはいない）までもを拘束しているとは考えられないからである。

しかしながら、「驚人之計」（Ⅰ）の制作時期を「1936年初め」と仮定すると、

「注」(Ⅱ)には三点の事実誤認が認められる。すなわち、まず第一に、Ⅱは「1936年初め」の段階で瓦窑堡とモスクワ間の電信連絡があったことを前提としているが、最近の研究は、1936年6月16日になって陝北とモスクワとの間の電信連絡に成功したとしている。<sup>10)</sup> 第二に、曹仲彬らが述べるように、王明が東征部隊の山西への展開を否定している点である。1936年6月以前ならいざしらず、Ⅱが書かれた時期において、彼が東征部隊の山西への展開を事実として知らなかったとは考え難い。第三に、Ⅱは劉志丹の戦死により“南旋”の中止を余儀なくされたと述べているが、彼の戦死が1936年4月14日であることは、<sup>11)</sup> 「1936年初め」という制作時期と両立しない。

この第一点から、「驚人之計」(Ⅰ)の制作時期は、陝北＝モスクワ間の電信連絡に成功して以降であるという推定が成り立つ。この時期におけるコミンテルンと中共中央との間の最も大きな見解の相違は両広事変に対する評価であつた。<sup>12)</sup> すなわち、中共中央は、紅軍と東北軍(張学良)・西北軍(楊虎城)との“三位一体”の初歩的形成を基礎として、両広との連携によって反蒋抗日勢力の結集を図ろうと試みた。<sup>13)</sup> これに対して、ソ連(コミンテルン)は、両広事変の基本的性格は日本がその中国侵略を隠蔽するために引き起こした陰謀であると捉えていた。一方、王明は、事変勃発当初には中共中央とほぼ同様の認識を有していたものの、徐々に、聯蒋抗日と国共合作を前提とする“民主共和国”の樹立を主張するようになっていった。<sup>14)</sup> 従って、筆者は、この両広事変についてのコミンテルンと王明の見解の相違が解消された時期(1936年7－8月)に「驚人之計」(Ⅰ)が作られた可能性が強いと考える。とすれば、この詩は、「中央の軍事戦略問題に関する決議」(1935年12月23日)によって提起され「五五通電」(1936年5月5日)を出して山西から撤収した東征ではなく、両広事変を対象としたものであり、これに対する中共中央の態度を批判したものであるとすることができる。確かに、両広との連携を実現するための黄河の二度めの渡河(“東征”)と南下は、事変そのものが広東の離脱(1936年7月)により早期に収束してしまったため実現しなかったのである。<sup>15)</sup>

また、曹仲彬らが言及している東征の目的については、看過しえない資料上の問題が存在する。すなわち、彼らは、革命根拠地を發展させるとともに全国の抗

日救亡運動を推進して抗日民族統一戦線の樹立を促すことが東征の目的であったと述べているが、この観点は、周国全らが的確に引用するように、「中央の軍事戦略問題に関する決議」に由来する。すなわち、「国内戦争と民族戦争を結合し、対日作戦を行う力量を準備し、紅軍を拡大」するために、「軍事行動の具体的部署の基礎は“抗日作戦を行う道を開くこと”（原文は“打通抗日路線”）と“現有のソ区を強化・拡大すること”であり、前者を中心任務とし、これに後者を密接に連携させなければならない。具体的行動において、紅軍の行動とソ区発展の主要方向は東側の山西と北側の綏遠などの省である」という部分である。<sup>16)</sup>ところが、1991年に出版された中央档案館編『中共中央文件選集』（第10冊）は、同決議を全文を初めて公表し、その際、従来の版本<sup>17)</sup>との間に極めて重要な字句上の変化が存在することが明らかになった。すなわち、従来の版本で“打通抗日路線”となっていた二ヶ所がいずれも“打通蘇聯”（ソ連との連絡を実現する）に改められた。<sup>18)</sup>さらに、従来省略されていた部分が、ソ連軍と中共軍との連携の実現を述べた「戦略」の（十）と“打通蘇聯”の任務を実現するための具体的段取りを述べた部分（丙）であることから、<sup>19)</sup>今回公表されたものが本来の「決議」であり、後になって、“打通蘇聯”を“打通抗日路線”に書きかえ、これに抵触する（十）と（丙）の部分を省略したと考えられる。<sup>20)</sup>このことは、東征の目的にはこの軍事行動を遂行するに当って実際に発表された反蔣抗日を主たる内容とするもの<sup>21)</sup>のほかに、意識的に伏せられた“打通蘇聯”に関するものがあり、少なくとも1935年末の段階では後者を優先的に追求しようとしたことを示している。<sup>22)</sup>これに対して、『王明回想録』における東征批判とは、「毛沢東は、瓦窑堡に到着すると、この中国北部に腰を据えて抗日の軍事行動に出る好機をうかがうことを欲しなかった。代りに彼は、右翼日和見主義的、悲観的見地から、“西征”の残存部隊五千七百を、以前から陝北にいた徐海東と劉志丹の率いる八万の部隊に合流させて山西省へ進撃するという、その冒険主義的作戰計画を実行しはじめたのである」というものであるが、<sup>23)</sup>“右翼日和見主義的・悲観的見地”や“冒険主義的作戰計画”という文革期における彼の毛沢東批判を差し引けば、東征にともなう陝北根拠地の放棄の可能性を指摘している点で「中央の軍事戦略問題に関する決議」と『王明回想録』における東征に関する叙

述は相通じるものがあるとしなければならない。<sup>20)</sup>

このように、筆者は、この『選集』に収録されている反毛沢東の詩と「注」もまた、中共党史を再構成するうえで多くの素材を提供していると考ええる。とはいえ、それらはまず第一に、1970年代における王明の見解を検討するための第一級の資料であるとするのが妥当であろう。

本稿を作成するに当たって使用した『選集』は、中国人民大学党史系の李良志教授が1989年にソ連科学アカデミー極東研究所を訪問された際、同研究所から教授に贈呈されたものである。『選集』を見たいという筆者の厚かましいお願いに快く応じていただいた李良志教授に、厚くお礼を申しあげる

#### 【注】

- 1) 『王明詩歌選集』、5-8頁。
- 2) 曹仲彬・戴茂林『王明伝』は、この『選集』を主たる材料とすると同時に、当時の王明を知る人々に対するインタビューによってそれを補っている。
- 3) 曹仲彬・戴茂林『王明伝』、419-420頁。
- 4) この『選集』の随所に付されている「注」は、ほかの文献では何うことのできない内容を有している。
- 5) 周国全・郭德宏・李明三『王明評伝』、544頁；曹仲彬・戴茂林『王明伝』、421頁。
- 6) 『王明詩歌選集』、105頁。
- 7) この時、王明は、ただ「彼〔毛沢東〕がかくも偉大だとは知らなかった」だけだとも述べたという（周国全・郭德宏・李明三『王明評伝』、544頁）。
- 8) 1975年、ソ連国家政治書籍出版社は、王明が1971年から1974年にかけて発表した4篇の論文を『中国共産党の五十年と毛沢東の反逆行為』と題してロシア語で出版した。1980年、現代史料編刊社は、その中国語訳を『中共五十年』として出版した（曹仲彬・戴茂林『王明伝』、408-409頁）。また、高田爾郎・浅野雄三郎訳『王明回想録』（経済往来社、1976年）は、ロシア語版からの邦訳である。
- 9) 曹仲彬・戴茂林『王明伝』、421頁。
- 10) 楊雲若・楊奎松『共産国際と中国革命』、上海人民出版社、1988年、367頁。
- 11) 『辞海』（歴史分冊、中国現代史）、上海辞書出版社、1984年 155頁。

- 12) 楊雲若・楊奎松『共産国際和中国革命』、367頁。
- 13) この点については、別稿「路線転換期における中国共産党の根拠地構想について」（未発表）で論及した。
- 14) 楊雲若・楊奎松『共産国際和中国革命』、367－371頁。
- 15) 両広事変当時、楊虎城と宋哲元・韓復榘との間で、南京政府の改組・すべての内戦の停止など6項目の合意が成立したこと、および、張学良と楊虎城は、蒋介石が両広に出兵するならば彼らも両広支援のために出兵すると取り決めたことについては、米鶴都「關於蒋介石在西安事変中の諾言問題」（『党史研究』、1986年第6期、8頁）参照。また1936年5月31日に中共が李宗仁との合作協定の締結の可能性に言及していることについては、王錦侠・張奇「両広事変與中国共産党“逼蒋抗日”方針的形成」（『中共党史研究』、1990年第2期、37頁）参照。
- 16) 周国全・郭德宏・李明三『王明評伝』、542頁。
- 17) 中共中央書記処編『六大以来』、下冊、人民出版社、1981年；中央档案馆編『中共中央文件選集』（党内発行）、第9冊、中共中央党校出版社、1986年；中国人民解放军政治学院党史教研室編『中共党史参考資料』、第7冊など。
- 18) 中央档案馆編『中共中央文件選集』、第10冊、中共中央党校出版社、1991年、590頁。
- 19) 同上書、592、595－597頁。
- 20) この書きかえが、1952年4月に『六大以来』の再版が出版された時になされたものであれば、それは周知の建国後における『毛沢東選集』の出版時における書きかえと同じ性質のものであるとすることができるし、また、1941年12月の初版発行時になされたものであれば、それは延安整風運動そのものの性質にかかわる問題となるであろう。
- 21) たとえば、『闘争』第96期（1936年4月24日）に掲載された3月1日付の「中国人民紅軍抗日先鋒軍布告」（中央档案馆編『中共中央文件選集』、第10冊、9－10頁）；『紅色中華』第267期（4月13日）に掲載された4月5日付の「為反对売国賊蒋介石閻錫山攔阻中国人民紅軍抗日先鋒軍東下抗日搗乱抗日後方宣言」など。
- 22) その後、党内において、この方針は陝北根拠地の放棄につながりかねないという危機を招来し、“打通蘇聯”の任務を長期的課題とすることによって収拾が図られた（邱路「紅軍東征戰略方針の提出過程及其演変」、『党史研究』、1986年第3期、33－36頁；楊奎松「中国紅軍打通國際路線戰略方針の演変」、『中共党史研究』、1988年専

題論文選輯、1989年 136－138頁）。

23) 高田爾郎・浅野雄三郎訳『王明回想録』、45頁。

24) 筆者は、この時期の中共中央において陝北根拠地を革命運動の策源地とする観点はいまだ確立されていなかったと考える（拙稿「路線転換期における中国共産党の根拠地構想について」）。

- 13 昼寝（童话）—请问孔夫子 九岁（作于金寨私塾）
- 14 扬扒皮（童话） 十岁（作于金寨私塾）
- 15 双河山东庙（七绝） 十一岁（作于东岳庙）
- 17 柳林晚兴（七绝） 十三岁（作于金家寨下店柳林）
- 18 金家寨（七律） 十四岁（于私塾毛树棠老先生出题命作）
- 18秋 对月独坐弹月琴
- 19秋 菊花（七绝） （秋作于金寨家中）
- 19夏 夜闻吹笛箫
- 19 霜寒初重雁横空（七律） 十五岁（作于金寨私塾）漆陶庵先生出题
- 19 年关（五绝） （旧历年关作于金寨家中）
- 2010 进三农（一）（语体） （作于三农）
- 21 前覆后戒（五律） （作于三农）
- 22 高琦不死（五绝） （作于三农）
- 24 芍药（一）（七绝） （作于金寨家中）
- 24夏 高山独行遇暴风雨（七律） （作于金寨）
- 2407初 七块大洋（七绝）—家庭能给我的全部升学费 （作于金寨）
- 2409 风雨登黄鹤楼（七绝） （作于汉口）
- 2410 喜闻道（七律）—谢仲明 （于国立武昌商大）
- 2410 豫皖青年学会会歌（仿苏武牧羊调） （作于武昌商大）
- 2411 借友访大智门车站述同感（七律）
- 24 访农家（七律） （作于金寨）
- 25春 悼孙中山先生（五律） （于武昌黄鹤楼追悼中山先生逝世大会上）
- 25春 江边送客（民歌体） （作于汉口）
- 2507 武汉青年反帝怒潮（七律）—六·二运动 （于金寨）  
—记武汉学生和工人声援上海五卅运动经过
- 2510 我们是革命青年（语体）  
—自武昌赴苏求学前夕，留别豫皖青年学会和湖北青年团体联合会的革命青年朋友们



- 251025赴莫前夕留别禹生（双五律）（作于武昌商大宿舍）
- 251102赴莫自汉去沪船中（五律）
- 25冬 过上海黄浦滩有感（七律）（赴苏路过上海）
- 2511下旬
- 赴苏海上赠诸友（七律）—致禹生并转豫皖青年学会各战友  
（登船赴莫前于上海法界平安大旅馆）
- 25底 谒列宁陵（七律）（作于莫斯科）※70春庆树配曲
- 2607 参观列宁格勒（七律）（于列宁城）
- 2703 海洋绕道行（七律）（于船中）
- 270321上海工人第三次起义胜利（七律）（于广州）
- 270430永垂不朽（五绝）—悼李钊同志（于汉口）
- 27秋 英雄本色（五绝）—悼马骏同志（于莫斯科中山大学）
- 2710 悼慰死难的革命烈士们（七律）（革命节于莫斯科中大）
- 2712 广州公司（七绝）—并悼英勇牺牲的张太雷等数千革命同志  
（于莫斯科中大）
- 28 初春（五绝）—接我党六大代表百余人来莫开会即景随感  
（于莫郊）
- 28 七夕观星（口占）（于莫斯科中大）
- 28冬 因劳成疾（七律）
- 2903初
- 沧海水（由莫返国船经青岛附近时作）※庆树作曲
- 2903上旬
- 抵上海（抵上海时作）※庆树作曲
- 290727从头学起有得（七绝）（离沪西区时作）
- 290731韬朋路上（七绝三首）
- 在沪东韬朋路码头工人席棚住区八一示威动员大会
- 29秋 悼金伯棠同志（五绝）（—于上海）
- 29秋 工农同悲（七绝）—悼彭湃、杨殷同志（于上海）
- 3001 狱中除夕（七律）—阴历29年底阳历30年1月（于狱中）

- 3001 狱情（五绝）（于上海提兰桥狱中）
- 30春 念故乡（七绝）（于上海）
- 30夏 视死如归之人（五古）—悼念张国焘同志并其妻晏碧芳同志  
（于上海）
- 3006 英电工人罢工总结（于全总办公室）
- 30 闻母死（古诗体）—时母年仅52岁
- 3008 从幻想到盲动（七律）—评李立三同志决定实行全国暴动  
（于上海）
- 3008 三度七夕（七绝）（时树在狱中）
- 3010 秋夜观星（口吟）
- 301123 结永伴（七绝）（于上海）
- 3101 雪晨过大马路（五律）（于上海）
- 31 而今“二七”（七绝）—悼“二七”龙华死难烈士
- 3105 海南（七绝）—悼李硕勋同志（于上海）
- 31夏 青年痛（七绝）—悼恽代英同志（于上海）
- 31夏 尼庵小住（口吟）（于上海）
- 31秋 大水灾（七绝）（于上海）
- 310919 “九一八”夜（双七绝）（于上海）
- 3205 抗日何计（七绝）（于莫斯科）
- 32秋 秋风思沪（七绝）（于莫斯科）
- 32 云天南北（七律）—悼蔡和森同志
- 32底 苏联得历史性胜利（七绝）（于莫斯科）
- 330314 卡尔·马可思（语体）—纪念逝世五十周年
- 33 念念不忘（七律）—悼陈原道、何子述两同志
- 33 妇女英雄（五律）—悼黄励同志
- 3311 悼片山潜同志（七绝）（于红场）
- 340227 光辉的凯旋（七绝）—季米特洛夫同志由德机送达莫斯科志庆
- 3410 红军北上抗日（七律）（于莫斯科）
- 35 得东北抗日联军组成报告（七律）（于莫斯科）

- 35春 归思（七律）（于莫斯科）
- 3510 长汀噩耗（七绝）—悼瞿秋白同志
- 3512 喜闻李罗两同志安抵瓦窑堡（五律）
- 3512 “一二·九”运动（七绝）
- 35冬 不死之人（五绝）—悼方志敏同志
- 36初 惊人之计（五律）（于莫斯科）
- 36夏 蒙古草原牧群（语体）  
—欣赏蒙古人民共和国草原牧群彩色照片志感
- 3610 哀思重重（七绝）—悼念高尔基声中惊闻鲁迅逝世
- 36 西班牙之战（七绝）—向西班牙人民和国际志愿军致敬
- 36秋 阴谋危害西路军（七律）※事件发生时
- 361205 光辉的苏联新宪法（七绝）（于莫斯科）
- 36 在格克尔特床前
- 361214 西安事件（七绝）
- 3708 全中国抗日战争暴发了（七律）（于莫斯科）
- 3710 平型关告捷（七绝）
- 3711 飞过大西北（三个五律）
- 3712初  
—不胜今昔之感（七绝）—离上海与到延安（于延安）
- 38春 见柳思乡（七绝）（于武汉）
- 38春 记长江（七律）（于武汉）
- 38春 久别重逢（七绝二首）—见父忆母（于汉口）
- 38春 武汉春怀旧（五绝）
- 38夏 战斗中的新四军（七绝）（于汉口）
- 38夏 《论持久战》—评毛泽东这篇论文的中心错误（七绝）（于汉口）
- 38秋 太行山抗日根据地（七绝）（于重庆）
- 3812 访武侯祠（七绝）
- 38底 《论相持阶段》与《六中结论》（七绝）  
—评毛泽东在中共六届六中全会上的报告和结论的错误和阴谋

（于延安）

39春 延安中国女子大学校歌（王明作词、冼星海作曲） （于延安）

39秋 让他“死不瞑目”（七绝）—评蒋介石与中共代表团谈的“肺腑之言” （于重庆八路军办事处）

39春 列宁风范（五绝）

—悼H·K·克鲁普斯卡娅和M·N·鸟里扬诺娃两位同志 （于延安）

39秋 小官僚（七律）—听友人说国民党中央党部一机关故事随笔  
（于重庆）

39 火烧阳明堡

39 寻留丹桂（七绝）—于重庆近郊红岩咀附近一小庙中  
（于红岩咀办事处）

39秋 过留侯庙（七绝）

3911 谒黄帝陵（七绝）

39底 《新三民主义论》（语体五律）—评毛泽东这篇论文的根本错误  
（于延安）

4010 亲法西斯的汉奸路线（语体七律） （于延安）

40冬 题曾国藩纂李鸿章审订的《十八家诗钞》（七律） （于延安）

4101 工人柱石（七律）—到皖南事变牺牲的项英同志 （于延安）

411007据理力争（五律）

—毛泽东拒绝季米特洛夫同志的抗日援苏建议，我批评他违背马列主义关于民族利益与国际利益一致的原则，发生激烈斗争。他理屈，阴谋危害我的身体。 （于延安杨家岭）

411021阴谋毕露（七律） （于延安中央医院）

411021病中即事和谢老原韵（七律） （于延安中央医院）

411027病中月夜感怀（语体七律） （夜）

4110 莫斯科颂 （作于延安中央医院） ※庆树作曲

4110 杨家岭（王明作词·庆树作曲） 于杨家岭

411102一万三（语体长诗五段）—重庆防空洞惨剧 （于延安中央医院）

411107遥望莫斯科（七绝） （于延安中央医院）

- 411207夜半狼声（五言语体三段）（于延安中央医院）
- 41冬 海上故人（七律）—悼任作民同志（于延安中央医院）
- 4202 所谓整风运动（五言语体）（于延安中央医院）
- 420216忆牡丹（七绝）（于延安中央医院）
- 42 思往增悲（五绝）—悼张浩同志（于延安中央医院）
- 42 百团大战
- 420330病中惜春（五律二首）
- 42春 谢中医李老鼎名（五律）（于延安中央医院）
- 42春 题志丹陵（五律）（于延安中央医院）
- 420519陕甘宁边区地图漫题（双五律）（夜）
- 42 旧游（七律）—悼杨松同志（于延安中央医院）
- 43春 斯大林格勒的伟大胜利（于延安杨家岭）
- 4306 大会诊结果（语体七绝）（于延安杨家岭）
- 431107神圣的列宁城（七绝）（于延安杨家岭）
- 44 政苛虎猛（七律二首）—悼邹韬奋同志（于延安杨家岭）
- 4408 巴黎解放
- 44 题鲁迅全集（五律）—忆鲁迅先生（于延安杨家岭）
- 44 祝沫若同志五十寿辰（于延安）
- 45春 延安春兴（五绝）
- 4504 毛泽东伪造党史（七绝）—评六届七中关于若干历史问题的决议（于延安杨家岭）
- 4504 所谓六届七中届决议（于延安）
- 4504 《论联合政府》（语体七绝）—驳斥毛泽东的《论联合政府》与《战时合作决定战后合作》（于延安杨家岭）
- 4505 所谓七大（于延安）
- 45 苏军攻占柏林（七绝）（于延安）
- 45秋 生死光辉（七绝）—悼台尔曼同志（于延安）
- 450820苏中红军会师东北
- 4508 光辉胜利念英雄（七律）（于延安）

- 4508 日寇投降（于延安杨家岭）
- 45秋 寤寐难忘（七绝）—悼冼星海同志
- 450909患难见朋友（五绝）—谢冈野进同志（于延安杨家岭）
- 45冬 弥天风雪（七律）—悼朱老宝庭同志（于延安）
- 4604 云天在望（五绝）—悼博古、邓发、王若飞、叶挺等同志并黄齐生先生等“四八”烈士（于延安杨家岭）
- 4604 生离死别（七律）—忆邓发同志
- 46夏 平民（七律）—悼陶行知先生（于延安杨家岭）
- 4612 绥德王家山农友谈话记（语体七律）
- 46冬 祝朱德同志六十寿辰（七律）（于绥德师范）
- 46底 中国诗小赞（语体五律）—与朱总谈中国诗后随笔（于杨家岭）
- 47春 悼中医李老鼎铭（于山西临县后干泉）
- 470814病苦（七律）—闻绥范亭同志病苦严重而作（夜于前甘泉）
- 470912真人（七律）（于后甘泉村）
- 47秋 土改工作记实（七律）（于山西临县后甘泉）
- 47 渡黄河（七律）
- 4711 忆芳儿（赴河西途中）
- 48春 土改新年歌（仿杜妮调）（于后甘泉）
- 4804 别后甘泉
- 4804 过五台山（七律）（于五台怀大塔院寺）
- 481112今古奇闻—评毛泽东的“人民血染伟大”论（于西柏坡）
- 481122“到北京做皇帝”—毛泽东自己宣传的（于西柏坡）
- 4903 西柏坡大事记（七绝四首）—有关河北平山西柏坡中共七届二中全会事件录实（1948年11月至1949年3月）
- 490316宁死不屈党人节（七绝）—坚拒毛泽东要求写“三骂声明”（于河北平山西柏坡）
- 49春 岳飞之死（七律）（于西柏坡）
- 4904 我军解放南京
- 49 我军占领南京（七律）

- 49夏 泪洒香山（五绝）—悼任锐同志 （于北京西郊香山）
- 4907 悼季米特洛夫同志（五绝）
- 49 《论人民民主专政》（七绝）—评毛泽东用人民民主专政代替无产阶级专政
- 491001中华人民共和国成立（七律） （于北京）
- 49秋 过文公祠（七绝）—祠在北京府学胡同，传即当年文天祥被困之处（于北京）
- 50 寄柳亚子先生（未发）—读毛贺其诗后书此慰之 （于北京）
- 501025值得冒险行（五绝） （于北京孟公府）
- 501025我国志愿军抗美援朝（五律） （于赴莫途中）
- 501028悼任弼时同志（七律） （于满州里候车闻耗）
- 50底 雪夜散步（七律）—与树遵医嘱睡前散步 （于巴尔维哈疗养所）
- 5112 王昭君（七绝二首）—读李白、杜甫等有关昭君诗随笔
- 51冬 白公堤（七绝）—见西湖白公堤织锦画随笔
- 52 成渝铁路通车（七律） （于莫郊别墅）
- 52 黄河探源胜利 （于莫郊别墅）
- 52春 捉放鹏（五言语体） （于莫郊别墅）
- 52 玉门油矿（七绝） （于莫郊别墅）
- 5211 白宫与华尔街（七律）
- 53秋 寄明儿—时年十四岁，住莫郊“青松”疗养所
- 530305大星顿陨（七绝二首）—悼斯大林同志 （于莫郊）
- 53夏 白宫心胆寒（七律）—对美国政府闻苏联优先拥有氢弹消息而惊惶失措丑态之述评 （于莫郊）
- 53秋 莫郊即事（七律） （于莫郊别墅）
- 53秋 寄新中国科学工作者—见莫斯科大学世界科学名人浮雕象行列中有我国组冲之、李时珍在内随感
- 53 战斗英雄（七绝三首） （于莫郊）
- 5311 武汉长江大桥（五律） （于莫郊）
- 5311 莫郊夕照（七律）

- 5311 东归晚别红场（七律）（28日、29日离莫返京）
- 54 小院春光（七绝）（于北京孟公府二号）
- 54春 成都似北京（民歌体三首）—因谈及成都亦名小北京随笔  
（于北京）
- 54春 登北海白塔（五律）
- 54春 颐和园石舫（七绝）（于颐和园石舫上）
- 54 所谓高饶反党联盟
- 55 病中忆金寨元宵（七律）（阴历正月十五日于北京）
- 5503 春梦还乡仍少年（七绝）（于北京）
- 55秋 伤脑筋的愉快（五绝）—重新翻阅黑格尔哲学著作随笔
- 5601 学气功（七律）（于北京医院）
- 5603 中苏航空线上（七律）（于莫郊）
- 56春 观赏白石老人画作漫题
- 56春 咏日（七律三首）—应亮儿要求而作
- 56春 寄明亮两儿
- 5604 莫边府大捷两周年（七绝二首）
- 56夏 蜀道不再难（语体七律）—闻宝成铁路通车随笔（于莫斯科）
- 56夏 割麦（语体）（于莫郊）
- 56秋 无尽宝藏（七绝）—择读内经随笔（于莫郊）
- 56秋 望云（七绝）（于莫郊）
- 56 记苏伊士运河事变
- 56冬 铲雪—就明亮两儿铲雪事与亮儿谈民歌习作
- 57 太史公—见报载司马迁诞辰随笔
- 57 秦汉兴亡—亮儿谈故事诗出题试作
- 5705 闻父死（古诗体）（于莫郊）
- 571004第一颗人造卫星—记苏联十月四日放卫星成功（于莫郊）
- 57冬 雪林（于莫郊）
- 57 三镇两山跨一桥（七绝）
- 57 所谓反右运动的真相



57冬 久雪（七律）（于莫郊）

58春 戒行反言者（语体七绝）

58春 麻雀问一调寄卖宝童歌

58春 广州城南凤凰树—阅报随笔

580612《梦吟》诗选（夜作于莫郊别墅）

（一）移居／（二）探监／（三）出狱／（四）生活（七绝）／  
（五）入院／（六）危安（语体七绝）—此事发生于1942年3月底  
延安中央医院／（七）起疑（语体七绝）—此指1942年4-5月发生  
的事／（八）天灵（语体七绝）—指1943年3月于延安杨家岭时／  
（九）暗情（语体七绝）—指1943年3月于延安杨家岭时／（十）  
正义（七绝）／（十一）真理（语体七绝）—指1947年冬于后甘泉  
时／（十二）未曾（语体七绝）／（十三）代劳／（十四）独见（七  
绝）／（十五）急救（语体七绝）／（十六）长存

580707消灭血吸的第一面红旗

58秋 抽象的真理是没有的（语体）（于莫郊）

58秋 如此“主脑”（七律）（于莫郊）

58秋 寓秋月之夜（七律）

58秋 学诗—答亮儿问学诗难易

58 病中梦中忆母（于莫郊别墅）

58秋 病危梦母忆父（七绝）（于莫郊）

58冬 艾烟芝影（于莫郊）

5812 第四面毛旗（语体七绝）—毛泽东决定缩减全国粮地三分之二

58冬 不知之谈（语体）—见电视中威尔斯会见列宁谈话影片后，忆及毛  
泽东反列宁主义随笔

58冬 保资跨灶（语体五律）—读报见小考茨基起草奥国社会党纲领，完  
全否认马克思主义、阶级斗争和社会主义，公开保护资本主义等消  
息随笔

58冬 病榻对雪

59 欢度春节

- 59春 扁鹊—秦越人先生墓
- 590301 史水流光（七绝）—题《人民画报》载安徽金寨县梅山水库彩色照片）
- 59春 第一颗人造行星（七绝六首）—志苏联对月球方向发射第一支人造太阳系行星火箭成功（于莫郊别墅）
- 59夏 读《革命烈士诗抄》书后
- 59秋 飞进月宫（七绝三首）—记苏联向月球发送国徽模型
- 59秋 怀谢老觉哉同志
- 59秋 秋夜怀友
- 5910 飞绕月球绕地球（七绝三首）—揭露月宫之谜（苏联发射第三支宇宙火箭带送自动控制行星际站“月球三号”飞绕月球复绕地球成功志）
- 591001 建国十年（语体七律）（于莫郊别墅）
- 600425 梦游青山李白墓（七绝四首）
- 6010 传情画意（五绝又七律）  
—欣赏徐悲鸿先生画集中《田横五百士》油画后随笔
- 601021 寄一松老人（七律）（于雪林寓中）
- 60 友谊（七绝二首）
- 60 神清气爽—观赏郑板桥先生所画兰竹并题诗影印版后随笔
- 60 得心应手—欣赏于非暗先生工笔花鸟画选集随笔
- 60冬 古巴人民的话（语体长诗五段）—向英勇革命的古巴人民致敬（于莫郊）
- 60 无题：有人（语体三段）※指毛泽东
- 60 勾践幸成（七绝二首）—听人谈新卧薪尝胆故事戏作
- 60底 如此“统帅”（七律）
- 6102 此仇必报恨必雪（七律）—悼卢蒙巴及其战友孟坡罗和阿基陀
- 61 《主席走遍全国》（六言语体五首）—李琦画像，郭沫若钊词，《人民画报》1961年第二期
- 610212 苏联代表探金星—苏联由重型地球卫星向金星发射自动控制行星际

站成功志庆

6103 今岁春来早（七律）—去冬今春苏联大部地区气候温暖，为七十余年所未有，莫郊三月宛如往年四月景象（于莫郊）

610321知友（五律）—悼陈赓同志

610412人到宇宙（双七律）—今晨苏联共产党员尤里·阿列克塞维奇·加加林乘“东方”号卫星式宇宙飞船作第一次宇宙飞行，绕地一周（远地点302公里，近地点175公里历时89.1分）完成了一定的科学研究任务，安全降落于预定地区）

610414宇宙英豪（五言诗体双五律）—今日尤里·加加林飞抵莫斯科，受到苏联党和政府领导人及百万市民的盛大而隆重的欢迎。苏联最高苏维埃主席团并授以苏联宇宙飞行员和苏联英雄的光荣称号（夜间与两儿谈作通俗诗口吟）

610816-18

梦游海洋（七律二首）

61 飞行宇宙（七律）—根据报载尤·加加林和格·季托夫两同志所述飞行情况

611031行将到来的新社会（双七律）—今日苏联共产党第二十二次代表通过建设共产主义社会的新纲领

611107十月共勉（七律）—庆树同志五十岁生日志感（于莫斯科）

620124梦返金寨思亲怀友（语体七绝）—梦中作

620131悲欢泪（七绝）—记梦返金寨游梅山水库

620313此生

620624-27

气候（七律）（于莫郊）

620803银汉

6209 秋兴（七律）

6211 反苏迷、核战狂（语体七律）—斥毛泽东利用加勒比海危机疯狂的反苏挑战

6212 其父其子（七绝）—见影印陈树人先生诗画忆及其子（留苏中大同

学，被陈济棠杀害之陈复同志

6212 难兄难弟（七绝）—见《人民画报》介绍岭南派随笔

62 《昆仑雨后》（七律）—提高剑父先生画

630106 “大家改造作新人”（语体）—题目为八十四岁的黄任之先生在政协为七十岁以上老人祝寿宴会上即席赋诗之末句

630122独路（七绝）

63春 居之安（七律）

630320起来！中国人民！—用聂耳作义勇军进行曲（国歌曲）

630513林下夕阳（七绝）

63夏 第一个女宇宙英雄（语体七律）—瓦莲·捷列什科娃同志

630725盛夏即景随笔

63 亲痛仇快的毛家纲领

640107读报笑谈（诗二首）

—1964年1月4日《人民日报》载毛郭诗词及毛诗郭注

640111堪笑止（警沫若）

—见报载郭沫若为毛泽东的诗词作文说明作注解等后写此（于莫郊）

6404 词三首（于莫郊）

640520花甲自勖（七律） ※阴历4月9日

640520自勉（七绝） ※阴历4月9日

640910志树种大丽花

641217乡念（七绝）

6503 太空人迹（七律）—记列昂诺夫同志走出飞船工作于太空

650407旅雁（五绝）

650410悼柯庆施同志

650825哀沫若

650825换护照及其他（七律）

650826忆尤利乌斯·伏契克同志（七绝）（于莫斯科）

651002勉亮儿—于二十岁生日

- 651226法宝“老三篇”（语体七绝五首）
- 6603 莫京三月（五律）—记苏共第二十三次代表大会与毛泽东不派中共代表团出席事
- 660404异常（五绝）
- 6606 毛帮罪行之一例（七律）
- 660701题七月一日《人民日报》社论（调寄西江月）  
—读1966年7月1日《人民日报》社论《毛泽东思想万岁》随笔
- 660830所谓文化大革命（七言语体） ※庆树配曲
- 660911怀沫若（夜）
- 6612 独夫必败（七律） （于莫郊）
- 661204如此毛帮（语体七绝十首）  
—有关所谓“无产阶级文化大革命”见闻随感
- 670211向英雄的越南人民致敬（语体七绝）
- 67春 狂叫“反修”之谜（语体七绝）
- 67春 狂叫反苏之谜（语体七绝四首）
- 670701想念同志们（七绝）—中共成立四十六周年纪念日 （于莫郊）
- 67 党人模范（五绝）—悼吴老玉章同志
- 680202侵越美军必败（七绝）
- 680321念“语录”（五言语体）
- 680411与友人谈《西游记》随笔（七绝二首）
- 680528自嘲（随笔）
- 6805 春意（七律）
- 6807 夏怀（一）（七律）
- 6810 秋思（七律）
- 68 冬望（七律） ※阴历12月
- 681208生死斗争（语体七律）—病中生活录实（晨5时不寐中）
- 681214死有遗憾（五言语体）—悼徐老特立同志
- 690330即事随感（七律）
- 690418心多力少（双七律）

690516有志竟成（七律）

690524自遣（七律） ※阴历4月初9日

690608春寒心暖（七律）

—春末感怀并志共产党工人党国际会议在莫斯科举行事

690619忆金寨（七律）—抄五十一年前私塾所作《金家寨》一诗有感

690629梦耶？真耶？—哀思奇和梓年（梦中作）

690904雨天噩耗—悼胡志明同志

690924读李白《沐浴子》书后

691022毛家报刊合照—阅报后随笔

691024燕妮之美（随笔）

691230“此之谓大丈夫”—提卡尔·布留洛夫画选及其介绍论文（随笔）

700120梦见双亲

700128贞鹤冤

700402病中初闻春雨有感

700422诗六首：纪念列宁百年生辰（语体一首、七律四首、语体七言一首）

（1069年12月28日—1970年4月22作）

701011芍药（二）（夜不寐中）

701016今年“十·一”之毛泽东（随笔）

7010 “月球车十六号”自动站月宫取土送归苏联记事

70 重九佳节

701118“月球车一号”—苏联“月球十七号”自动站携带月球车在月球表

面行走并作科学试验

710316听庆树同志论中医随记

71春 春风

710322四大奇书小赞（随笔）—夜与树谈古书

710322心力虽衰，真理必胜—病衰感怀（夜阑不寐中）

710328经验之谈

7105 为何毛泽东狂叫要进行思想和政治路线的教育并抵制王明？

71 祝宋老庆龄八十大寿

71 题何老香凝画虎

711119梨苹冬话

71 冬至

720403电母见闻录—今日下午7时半目击庆树扭台灯灯泡几乎触电受难随感

720408天叫苦

720504大公无私之人—悼念谢老觉哉同志

72夏 夏怀（二）

720809病豪

720824生活与生存（随笔）

721009患情

721016志仲尼暮年

721024卧龙

72秋 美帝败退越南

72秋 破伞孤僧—毛泽东自道也

72 越南抗美救国战胜

730729非不为也，是不能！

730801读曹操《宣示孔融罪状令》（随笔）

730801读曹操《短歌行》（随笔）

730829顾此是彼—怜沫若

730829指桑骂槐—难沫若（夜）

## 附：对联六对

19 （一）所谓“绝对”之对

2506 （二）追悼死难烈士挽联

65夏 （三）送毛泽东对联

72冬 （四）评毛泽东悼陈毅一联

721202（五）绝对试对（一）

55 （六）绝对试对（二）